

第三者評価 評価結果総括表

NPO 中小企業再生支援第三者評価事業部

事業所名	ポピンズナーサリースクールセンター南
報告書作成日	平成 29 年 1 年 10 日 (評価に要した期間 7 か月)
評価機関	NPO 中小企業再生支援第三者評価事業部

評価方法

自己評価方法 実施期間：平成 28 年 9 月 15 日 ～平成 28 年 09 月 30 日	全職員が参加し、職員会議などを通して検討を重ね、その結果を園長がまとめました。
評価調査員による評価方法 実施日：第 1 日目平成 28 年 10 月 04 日 実施日：第 2 日目平成 28 年 10 月 21 日	評価調査員 3 名が 2 日間園を訪問し、現場観察、書類確認、職員ヒアリング（園長、職員 3 名）および子どもの観察を行いました。
利用者家族アンケート実施方法 実施期間：平成 28 年 9 月 5 日 ～平成 28 年 9 月 16 日	全園児の保護者に、アンケート用紙と返信用封筒を園から渡して、園に回収箱を備え、無記名・密封の状態ですべて評価機関が回収しました。
利用者本人調査方法 (実施日：平成 28 年 10 月 4 日 10 月 21 日)	園児の 1 日の流れに沿って、保育園での生活状況を観察を中心に行いました。また、園児と遊びや食事をともにしながら、会話の中から聞き取りを行いました。

評価結果についての講評

<p>【施設の特徴】</p> <p>・ 立地及び施設の概要 株式会社ポピンズが運営するポピンズナーサリースクールセンター南は横浜市営地下鉄ブルーライン・グリーンラインのセンター南駅より徒歩 5 分のビルの 1 階にあります。 園は 2010 年 4 月 1 日に開設された、0 歳から 5 歳児の定員 50 名の小規模な保育園で、現在 49 名の園児が在席しています。園の大道路を隔てた北側には、広大な自然を有する都筑区中央公園があり、また、徒歩 15 分以内に多くの公園があり、園では子どもたちの発達に合わせて選択し、散歩、運動に利用しています。</p> <p>・ 特徴 園の具体的な保育手法として「エデュケア」(education 教育、care 保育の合成語)があり、これを実践する上で園は、ポピンズアプローチという独自の手法により子どもの成長を支援しています。ポピンズアプローチでは子どもの成長における重要時期は「0 才から」として、子どもの知力</p>
--

を、言語・音楽・論理数学・空間構成・身体運動・自然科学・社会性・自己受容の8つの領域に整理し、「知力8（エイト）」と名付け、子どもの発達状況を勘案して、これらをベースとして組み合わせるカリキュラムを構成・実施しています。

【特に優れていると思われる点】

1. 0歳からの保育教育

子どもの発達は0歳から始まっており、「小さいから」「できないから」ではなく、初めは緩やかに進んでいき、やがては一気に習得できるようになります。よって園は、根気よく、気長に子どもに寄り添い、一人一人の才能と個性を伸ばす保育を実践しています。子どもは家よりも園で過ごす時間が長いので、園を第二の家庭として位置づけ、職員全員で子どもを見守り育てています。

2. 落ち着いて人の話を聞く習慣

系統だった保育手法を0歳児からも始めることにより、小さいうちから「人の話を聞く姿勢」が身に着くようになっていきます。保育士が話を始めると1歳児でも声のする方向に向き直り、内容は理解できなくても耳を傾けています。園での日々の生活の中で「落ち着いて静かに人の話を聞く姿勢」が出来上がっていました。

3. 子どもの口から保護者に情報を伝える伝達力の養成

行事などのお知らせは事前に園より保護者に伝えていますが、大きい子のクラスでは、今日の保育園での生活内容を、子どもの口から保護者に伝えるようにしています。園目標の中にある「グローバル社会で活躍できる人間」の基礎作りの一歩として「正しく人に情報を伝える」を習得する教育です。保護者には事前にその旨、主旨を説明し、了解を得て進めています。正しく伝えられたときには、褒めてあげて自信を持たせるようにと、保護者にはお願いしています。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 子育て専門家集団としての地域へのさらなる貢献を

地域の子育て世代は、色々な子育ておよび、その準備に不安を持ち、相談相手を求めています。よって、地域に対して一週間単位で曜日、時間を決めた子育て相談の積極的な案内や、地域への子育てや保育に関する講習・研修会の開催を期待いたします。

事業所名: ポピンズナーサリースクールセンター南

NPO中小企業再生支援第三者評価事業部



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類

I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成



評価の理由（コメント）

・株式会社ポピンズの企業理念は「最高水準のエデュケアと介護サービスで社会に貢献します」とし、エデュケアとはエデュケーション（教育）とケア（保育）の合成略語です。

・ナーサリースクールとは保育学校の意味です。園の保育理念は「人生で最も重要な時期の人間教育を目指します」です。教育に重点を置き、保育目標として「①寛容な人間、②聡明で愛情深い人間、③探究心の旺盛な人間、④グローバル社会で活躍できる人間」と人間像の養成を挙げています。

・横浜市認可保育園である「ポピンズナーサリースクールみなとみらい」は英語で保育学校を意味します。創業者である中村紀子代表が英国の教育ベビーシッター養成校ノーランドカレッジの保育手法を導入、全国で100箇所をこえるまでに成長しています。園は最も教育を重視します。理念は「人生の最も重要な時期の人間教育を目指します」です。ポピンズの哲学は“私たちは、子ども一人一人独立した存在として尊敬し、個性を伸ばし、子どもの尊厳、独立心、権利を守る”と子どもとその保護者本位の保育を宣言しています。

・教育方針として(1)インターナショナルで活躍できる人間、(2)グローバル社会で活躍できる人間を掲げ、この方針 目標をホームページ、玄関に掲示し、指導計画など社内資料のトップに示し保護者、職員に周知徹底しています。

・真の人間教育「エデュケア」(education教育、care 保育の合成語)を実践していくため、独自の手法であるポピンズアプローチにより、人生の重要時期は「0才から」としてこどもの知力を8つの領域に整理し「知力8(エイト)」と名付け、カリキュラムのベースとしています。

・理念、基本方針は玄関に掲示し、スタッフには各種会議で、保護者には「重要事項説明書」に詳細な解説を掲載し、周知を図っています。

・一日の保育の流れの中で午前中「エデュケアプログラム」を組み毎日実施しております。

・保育課程は、保護者の就労状況や待機児童の多さなどの地域特性を配慮、朝7～20時までの保育で保護者負担の軽減を実施しています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



・入園前の保護者からは「児童票」「児童健康票」「お子様について」などを提出してもらい、子ども同伴の面接を行っています。園からは施設長、看護師、栄養士などが面接に立ち会い、保護者の育児方針（教育方針）や意向や提出書類の記載内容の確認などを行い、面談結果は園の「面接シート」に記録し、個人ファイルに取入れ、職員全員で内容を共有し、保育に活かしています。

・慣らし保育は、保護者に対し子どものストレス軽減を最優先に考え、その意義を十分に説明の上、協力を要請し、乳児は入園日を含めて3日間は2時間ぐらいの預かりとし、その後子どもの様子を見ながら徐々に長くする方式をとっています。

・新入の0、1歳児については可能な限り保育士の入れ替えは行わず、見慣れた顔で見慣れた安心感のある空間での保育を心掛けています。

・個別連絡ノートは0～2歳児は毎日、3歳児以上は必要全都度記載できる「ポピンズメモリー」を利用しています。

・在園児の進級に際しては、そのクラスの保育士が2歳児までは最低1名は子どもと一緒に、上級クラスへ持ちあがる方式をとっています。

・週1回の「週案ミーティング」で子どもの様子報告や保育の内容の検討・見直し、月1回の「スタッフミーティング」で評価反省を記入し、次月の計画に反映させています。また、計画は子どもの様子により柔軟に変更できるようにしています。

・「スタッフミーティング」では複数の保育士、看護師、栄養士が出席し、必要ならば保育時の写真やビデオなどを持ちだし、全員で意見交換を行い、次の指導計画に結び付けています。

I-3 快適な施設環境の確保



・各職員が園の全ての掃除箇所を分担して清掃し、「衛生チェックリスト」「安全チェックリスト」に清掃後は必ず記入することで掃除漏れを無くし清潔を保っています。

・園はビル内の24時間換気装置のほかに必要な際には、道路側窓の通気口を開放することで換気には絶えず配慮しています。

・保育士は子どもの状況や自らの体感温度で室温には気を使い、エアコン設定などをこまめに調整して保育にあたっています。季節に応じては扇風機や加湿器を使用しています。

・0歳児室隣には沐浴設備（温水シャワー）があり、幼児が外で水遊びや泥遊びをしたときには、温水シャワーを使用し、また0歳児沐浴設備を含めて使用後には必ず清掃しています。

・0、1歳児室は各々独立した保育室で保育されていますが、2歳児以上はワンフロアスタイルの保育室を、背の低い収納棚で仕切った保育室になっており、好きな遊びを十分に楽しめるように、遊びの内容に応じたコーナー遊びを設置しています。

・食事の場と午睡の場は別の空間で取れるようになっています。

・2歳児以上はワンフロアスタイルなので、一日中異年齢が触れ合う保育となっていますが、特に毎日朝、夕の時間帯には、異年齢児が一緒になって遊んでいます。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児までは「個別カリキュラム」を作成し、月末に評価反省を行い施設長が確認しています。特別に配慮が必要な幼児についても個別指導計画を作成しています。
- ・反省評価による見直しは定期的に行うばかりではなく、子どもの発育に伴う変化が見られたときや別の兆候があれば随時関係者でカリキュラム会議を行い計画の変更・見直しを行っています。
- ・保護者とはトイレトレーニング・食事などについて、定期・不定期的に個人面談を行い、得た内容はカリキュラムに反映しています。
- ・就学予定児については、「保育所児童保育要録」を年長児クラス担任が今までの「児童票」「児童健康票」などの「お客様資料（個人ファイル）」の中から子どもや家庭の個別の状況・要望の情報を所定様式に記入し、施設長の承認を得て、小学校に書留にて郵送しています。
- ・入園後の子どもの成長記録は「お客様資料（個人ファイル）」の「児童票」の中に逐次記入しています。
- ・個人別にファイリングされた書類は、個人情報保護のために鍵のかかる書庫に保管していますが、日中は開錠し、事務室からの持ちだしは禁じていますが、全職員は手にとって見ることはできます。
- ・個人別にファイリングされた書類は、子どもの進級時の職員間申し送りに利用しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・配慮を要する子どもに関して外部研修には必ず誰かを出席させ、最新の情報は研修報告にて他の職員も共有し、保育に活かせる体制にあります。施設はバリアフリーで環境は整っています。
- ・都筑区の園長会議に関係機関と連携できる関係は整っており、また、保護者の了解があれば「北部療育センター」と連携できる関係も整っています。
- ・横浜市などで開催される研修に職員を積極的に参加させており、最新の情報について「スタッフミーティング」にて話し合い、皆で共有しています。
- ・虐待事例はありませんが園には「虐待マニュアル」があり、これにそって疑わしい場合も含め、細かい気付きを施設長、主任に報告し、通報する体制はできています。
- ・虐待の予兆発見に関しては、絶えず子どもの様子に気を配り、健康確認を充分に行い不審な怪我やあざ等の発見に努めるようにしています。場合によっては、写真を撮り記録に残すことにしています。
- ・「アレルギー対応マニュアル」により、入園時には医者からの指示書を基に保護者、栄養士、クラス担任、看護師、必要な場合には施設長も入り、対応について話し合っています。
- ・アレルギー除去食の献立は、毎回前月末に保護者に届け、内容のチェックをして貰っています。

- ・アレルギー食は「手配書」を見ながら栄養士が調理し、子どもの名が入った他とは色の違う専用トレーに除去食を入れた食器を並べ、各々の食器にラップ掛けをし、除去食には黒マジックペンで丸印を付け、さらにトレーには除去内容を書いたラベルを張り付けています。保育士に手渡す時も「手配書」と「ラベル表示」を声に出して読み合わせています。結果としてはトリプルチェックにて子どもの口に入る仕組みです。アレルギー食を子どもに配膳をする保育士は黄色のエプロンを着用することで周りの職員からも、重要な任務が遂行されていることが意識される様になっています。
- ・外国籍の子どもについては子どもたちは小さい時から保育園で一緒に生活していますため違和感なく溶け込んでいます。そのような状況下、園は特に文化の違いを強調することはしていません。
- ・毎月他の国の文化や生活については、名所、通貨、動物などについて写真を掲示し、他の国の紹介も行っています。
- ・現在、保護者のどちらかは日本語が話せるため、通訳などは必要としていないが、必要となれば、「通訳ボランティア」の活用などの手段はあります。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



・苦情の受付に関しては、苦情受付担当は主任で苦情解決責任者は施設長、さらに第三者委員2名の連絡先を玄関フロアに掲示しています。

・年1回ISOの顧客満足度調査を実施しており、保護者より「保護者アンケート」の提出を受けています。

・保護者の要望・意見に関してはアンケートのほかに行事後のアンケートや懇談会、個人面談からも汲み上げています。

・意見の表明の難しい保護者に関しては、可能な限り声掛けをするようにし、意見が出やすい雰囲気作りに努めています。

・玄関には権利擁護団体のチラシ、パンフレットを置き、保護者に提供しています。

・園には「苦情対応マニュアル」があり、第三者委員を交えて対応する仕組みができています。

・園単独で解決困難な場合には、設置法人の関係部署や都筑区などとの連携もできるようになっています。

・受け付けた苦情については解決までに「不適合経過報告書」に時々刻々、対応内容、経過を解決するまで無期限に記録を続けることになっており、途中では放置できない仕組みになっています。

・毎月設置法人本社で全体会議が行われ、他の施設での要望、苦情を報告してケーススタディをしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ-1 保育内容[遊び]



・乳児クラスでは子どもの手の届く最下部にぬいぐるみや絵本を置いています。大きなぬいぐるみは棚の上に置いてありますが、子どもの様子を察知して保育士が手渡しています。3歳以上は自前の道具箱にクレパス、粘土、ハサミなどが入っており、2人共用のロッカーに保管しています。使いたい時にはいつでも取り出して絵を描いたり、製作することができます。

・ままごと遊びがきっかけで、子どもの発想から「お店屋さんごっこをしよう！」ということになり、銀行屋さんではクラスごとでお金を作り、郵便屋さんではお手紙を書きました、保育士も参加して盛り上げました。

・一斉活動ではみんなで遊べる「遊び」を提案し、そのなかで共同の遊具や用具を大切にし、譲り合う気持ちやいたわり、ルールを身につけています。子ども達にルールを押し付けるのではなく遊びのなかで子ども達がルールのあることを知り、気付きを促しています

・メダカが死んだとき、皆でお墓を作りました。子ども達は「何で死んだのかなあー、」それぞれにメダカの死を悲しみ命の尊さ、大切さを学びました。

・地域の高齢者ディケアセンター（ゆめふる）を毎月訪問し、交流を行っています。

・音楽講師によるリトミックでは、0～5歳児まで年齢別にレッスンを受けており、子ども達が自由な発想で身体を動かして自由に歌ったり、踊ったり、表現活動を楽しめるような環境作りをしています。

・喧嘩の場面では危険のないことを確認し、子ども同士で解決できるように見守り、解決できない場合は仲裁に入って、なぜそうなったのか双方の意見を聞いて納得できるように支援しています。ぶつかり合いを経験することで相手の要求に気づいたり、わかろうとする気持ちを大事にしています。

・職員は常に公平感を持って子どもに接し、視線を同じくして子どもの思いを受け止め、慈しみのある優しい言葉で話しかけ、信頼関係を築けるよう努めています。

・子どもの年齢やは発達状況に合わせて対象公園を選択しています。遊具を中心とした公園、かけっこなど運動能力を高められる公園とに分けています。園内でも平均台、フラフープ、トンネルくぐり、移動式の鉄棒、玉入れなど運動能力を高め、体力増進を心がけています。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



・子どもの好き嫌いを事前に把握し、無理に食べさせるのではなく、子どもが食に関心が持てるよう、保育士は言葉かけをして楽しく食事ができるように配慮しています。手づかみでも自分で食べたい気持ちを大切にしています。

・月1回の食育クッキングでは全園児が参加し、1歳児もかぼちゃの種をとるなど食に携わり、興味関心を持てるようにしています。

「年間食育活動計画」に基づき、折々の行事や誕生日に因んだ行事食、旬の食材を使った料理を取り入れ、季節を感じられるように配慮しています。

・食材は安全性の高い有機野菜、無添加食材を取扱っています業者より調達しています。食器は子ども達に小さいときから本物を知ってもらうため、園オリジナルの陶器を使用しています。

・栄養士は各テーブルを巡回し、声かけしながら子どもの食べる様子を視察しています。給食日誌に毎日、残食を記録しています。

・月1回のスタッフミーティングでは栄養士と全スタッフが集まり、残食では何がいけなかったのか、人気メニューについても意見交換し、次回の献立に反映させています。献立表は栄養士チームが作成し、月末に配布しています。

・食事サンプルは玄関入口に昼食とおやつを提示し、人気メニューのレシピは保護者が自由に持ち帰れるようになって

います。体調がすぐれないときは「食事内容変更届」があり、おかゆや油抜きのお食事を提供しています。

・眠れない子どもについては家庭での眠るときの癖や習慣について聞き取り、家庭と同じようにして安心して眠れるように配慮しています。5歳児は秋ごろより徐々に睡眠時間を減らし、就学に向けた体制に移行するようにしていますが、保護者の意向で午睡が必要な子どもには柔軟に対応しています。

・トイレトレーニングについて、0～2歳児は「排泄チェックリスト」をつけて一人一人のリズムを把握し、個人差のあることを尊重し、ストレスにならないように配慮しています。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



・入園面接時、保護者に「健康票」を提出してもらい既往症や予防接種歴、アレルギーの有無などを把握しています。毎朝、看護師が子どもの様子を見回っています。保育中に具合が悪くなった場合、まずは看護師の指示を仰いで保護者に連絡し、降園後の対応について話し合っています。

・嘱託医による健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、結果は保護者に伝えていますが、気になることがある場合は、受診を勧めています。嘱託医より、アドバイスや情報をお願い連携を図っています。

・「感染症予防マニュアル」があり、「重要事項説明書」に感染症一覧を記載し、登園許可書が必要な感染症と登園許可が不要な感染症について明記しています。感染症が一人でも発生した場合には、玄関先に情報を掲示して保護者に情報提供と注意喚起を行っています。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・採用時には看護師による新人研修を受講しています。マニュアルについてはスタッフミーティングで意見交換し、そこで出た意見などを留め置き、定期的にマニュアルを見直し改訂しています。また「汚染処理マニュアル」では嘔吐時の対応についての研修をし、全職員が共有しています。

・「お掃除マニュアル」「保健業務マニュアル」に基づき早朝にするもの、保育終了後にするものに分けて毎日行い清掃後は「衛生チェック表」に記録し、管理しています。水質検査は毎日実施し、保育士も毎月、腸内細菌検査を受けています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・落下や転倒のおそれのあるものは落下防止、転倒予防策がとられ金具で固定し、窓ガラスも安全面から飛散しないガラスを使用しています。



・「危機管理マニュアル」や重要事項説明書にも安全管理に関する注意事項を記載し全職員は周知しています。

・緊急連絡は園が平成23年8月より導入した安否確認ツールにより緊急時の連絡手段を確保し、非常の際には事前に保護者より登録のアドレスに緊急連絡等の情報を発信する体制になっています。



・毎月避難訓練を実施し、散歩中の不審者対応訓練も計画的に実施しています。毎年、救命救急講師による救命救急講習を全保育士が受講しています。AEDの設置は同敷地内1階に設置しています。

・小さな怪我でも必ず保護者に伝え、「アクシデントレポート」に記録し、保育士間で共有しています。




・事故や怪我がどのようにして起こったのか？場所、時間、内容等をひと月ごとに統計をとり、結果をスタッフミーティングで話し合い、保育の見直しを行っています。ヒヤリ・ハットについても情報交換し事故の予防に活かしています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="183 188 440 219">Ⅱ－３ 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に人権研修を盛り込み、毎年実施しています。子どもに対して好ましくない対応や言葉遣いをテーマに挙げて職員会議で意見交換し、常にきれいな言葉、正しい日本語を使うように心がけています。 ・子どもに注意をするときはその子をそっと呼んで「何がいけなかったのか」を説明し、納得できるように話しています。一人一人の子どもと、ていねいに向き合い尊重し、個性を伸ばすよう関わっています。 ・子どもが一人になりたい時や落ち込んだ時には、応接室やワンルームを仕切ったコーナーがあり、友達や保育士の視線をあまり意識せずゆっくり過ごすことができます。自分の思いを伝えられない子どもには、安心して話しやすいように保育士や場所を変えるなどの環境設定の工夫をしています。 ・職員は新任採用時に個人情報の守秘義務についての説明し、誓約書を交わしています。また、研修やガイドライン・マニュアルに従って個人情報の取り扱いについて全職員が周知しています。 ・業務マニュアルの中に男女平等ということが示されています。一人親家庭もあるので子どもや保護者に対して性差による固定観念を植え付けるような話し方をしないようにしています。保育士1人ひとりが固定観念を持たないように留意し、日々の保育で気になる点について保育士間で確認し合っています。
<p data-bbox="183 1048 584 1079">Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、保護者に保育方針が理解されているかどうか、法人全体でアンケートを実施し、把握しています。園の集計では94%の人が保育の目標や方針についての説明に満足と答えています。また入園時に配布する重要事項説明書に教育方針と保育姿勢を明記し、玄関入口に保育方針を掲示しています。 ・0～2歳児は「ポピンズメモリー（連絡帳）」に毎日、その日の様子を記載し、3歳以上は必要時「ポピンズメモリー」に記載しています。年1回の個人面談では保護者に希望日を聞いて実施していますが、さらにいつでも個人面談ができることを伝えています。 ・「ポピンズニュースレター（園だより）」を毎月配布し、「行事の案内」や「お知らせ」を記載しています。年2回のクラス懇談会で園目標やクラスのねらいを説明し、これからの活動内容や現在の状況を保護者に伝えていきます。毎日の子どもの活動の様子を写真に撮り、保護者がお迎えの折見られるように玄関入口に掲示しています。保護者が予定を立てやすいように、年度初めに年間行事予定表と「重要事項説明書」を配布し、説明しています。「ポピンズニュースレター」でも翌月の行事予定を記載し、事前にお知らせしています。 ・保育参加は年1回設けており、保育参観は保護者の希望があれば随時受け入れています。 ・年度末の卒園を控えた保護者の集まりで、卒園記念物の園への贈呈など相談には乗っていますが、場所の提供を要請されたことはありません。 ・保護者組織はありませんが、保育面談や保育参加には随時応じてコミュニケーションを図っています。また、運営委員会を經由して保護者代表とは常にコミュニケーションをとっています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="177 241 703 309">Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てニーズは、施設長が出席する都筑区園長会議から入手し、都筑区で行う色々なイベントへの協力の際に参加者から得られる意見などから把握しています。 ・特に地域住民に対する子育て相談事業などは実施していません。 ・施設長や年長児担任は地域の都筑区幼保小交流事業や地元保育園連絡会などに参加し、地域での保育事情を検討し合っています。 ・地域から得られた情報により、地域ニーズにどのように対応するか、保育課程作成時に職員間で討議しています。 ・結果、園独自の対応策を打ち出すまでにはいかないが、近隣の保育園と合同で、「保育園広場イベント」を開催し、交流保育の実践は行っています。 ・地域への子育てや保育に関する講習・研修会を開催は今後の課題です。 <p data-bbox="703 712 821 745"><提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間単位で曜日、時間を決めた子育て相談の案内を掲示物等で地域に発信することが望まれます。 ・園は地域での子育て専門集団として、地域への子育てや保育に関する講習・研修会を開催を期待いたします。
<p data-bbox="177 1059 703 1126">Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間数100件の見学受け付けがあり、その折には保護者からの育児相談を受けて、即対応しています。 ・育児相談日や時間帯を決めていません。 ・区内外、広域範囲にわたり入園希望者がいるため、特に地域に特化した情報提供はやっていません。 ・保育園が関係する都筑区役所や北部療育センターなどの地域機関や地域団体の電話番号は、電話帳にリスト化されており、職員で共有しています。 ・関係機関との連絡窓口は相談内容によって、施設長、主任、看護師、栄養士、保育スタッフなど対応できるようにしています。 <p data-bbox="703 1406 965 1440"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園職員の子育て専門家集団という立場から、地域での子育て世代に対する貢献が期待されます。機会あるごとに勉強会への職員の派遣などで、貢献されることが期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・都筑区及び周辺地域保育園で行う「保育園ひろば」にはドッチボール大会など全面的に協力し、交流を図っています。また地域の高齢者施設「ゆめふるデイサービス」には3歳児が敬老の日を含め、定期的に訪問し、歌や踊りや昔のゲーム遊びなどで交流しています。 ・地域の小学校とは就学対象年長児の学校授業体験、学校内探検などで訪問し、年長児クラス担任職員は学校の公開授業参観に出向き、体験談を年長児保護者に伝えています。 ・散歩では行き違う地域の人と必ず挨拶をし、近隣の商店街や園と同じ建物内のグランクレール住民と「ハロウィン・子どもの日」などで交流しています。 ・園の向かいにある都筑区中央公園や区図書館、地区センター体育館などを機会あるごとに利用しています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事にも地域の人が来園し、園内を知ることも運営の透明性維持に意義があり、努力を期待します。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人代表の保育園に関する記事は、全国紙にたびたび掲載され、園の情報も合わせ、報道されています。 ・都筑区の幼稚園・保育園紹介冊子には保育所として、サービス内容の詳細、料金、職員体制等、必要な情報を掲載しています。 ・見学者に対しては保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等について、パンフレット等の資料で分かり易く説明しています。 ・見学希望者はあらかじめ「受け入れ様式シート」に必要事項を記入の上申込を行い、記載されています持参物携帯の上受け入れています。 ・見学希望者には希望の日時を確認して、保育に支障をきたさない範囲ならば対応しています。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生、ボランティア共にマニュアルなどで受入れの仕組みは出来上がっています。 ・実際の受け入れがあれば、職員には職員会議で、保護者には運営委員会で説明することにしてしています。受け入れ担当は施設長、主任です。 ・学校や実習生からの希望実習ポイントで修正することはありますが、責任実習、部分実習の基本的なプログラムは用意しています。実習最終日にマニュアル上意見交換をして感想を記録します。 <p><提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアに活動の場を提供したり、将来の保育園職員人材を育成する意味での実習生受け入れに関して、より積極的姿勢で臨まれることを期待いたします。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
------	-------------

V-1 職員の人材育成



- ・職員補充の必要性が出た場合には、施設長は本部に通知し職員補充を進めています。
- ・設置法人では職員採用に際して、新人研修、フォローアップ研修、インテンシブセミナーなどで「クオリティーブック」を使用して、継続的な研修を行い、職員の絶え間ないスキルアップを促しています。
- ・各職員は毎年「エバリエーションシート（個人目標）」を立てて施設長に提出し、年2回自ら達成度を評価、自己査定し、施設長と個人面談しています。
- ・設置法人のホームページには「webポピズ学習システム」があり、職員およびパート職員は日中の休憩時間や帰宅後の家でも随時学習できるシステムが確立しています。
- ・設置法人の系列園で行われる「公開保育」に職員は積極的に参加し、他園の保育状況を体験しています。
- ・受講した職員の「研修報告レポート」を施設長はよく吟味して、以後の職員受講予定テーマを取捨選択しています。
- ・「保育園業務マニュアル」は非常勤職員でも入職時に主任より説明を受け、マニュアルは誰でもすぐ手に取れるところに置いてあります。
- ・系列他園のから上がってくる事故・苦情報告・是正内容報告について、非常勤職員にも周知するように情報共有の仕組みがあります。
- ・主任は非常勤職員と施設長の間に入り、職場でのコミュニケーションの円滑化に貢献しています。

評価分類

評価の理由（コメント）

V-2 職員の技術の向上





- ・園の保育日誌には28項目にわたる「保育サービスチェックリスト」があり、各クラス担当職員は毎日一日の保育を振り返り、自分達の保育の質を自己査定しています。
- ・毎日の「保育サービスチェックリスト」のまとめ結果は、週毎、月毎のスタッフミーティングで取り上げ、問題点、課題を抽出しています。
- ・園の月案、週案、個別カリキュラム、成長記録、保育日誌には、職員は必ず記入する「評価・反省」欄を設けています。
- ・施設長は各指導計画書の「評価・反省」記入内容が「計画のねらいと関連付けてあるか」「子どもの意欲を重視しているか」を必ず確認して、必要な場合には担当職員の指導を行っています。
- ・保育活動のビデオ、写真などを基にカンファレンスを行う「ドキュメンテーション」では、複数の職員の意見を得て次の指導計画の作成、見直しを進めています。
- ・設置法人には保育所や職員一人一人の法人理念や基本方針、保育課程にそった「評価シート」があり、園ではこのシートにそっても自己評価を進めています。自己評価結果の総括については設置法人のホームページに概略を掲載しています。

V-3 職員のモチベーションの維持

- ・設置法人には経験年数や役職に伴う「人材育成プログラム」があり、このプログラムにそって研修計画などを作成しています。
- ・園では施設長、主任、クラスリーダー、職員の間で「報・連・相」の徹底を図っており、何が起きても誰が対処しても問題がないように普段から情報の共有を心掛けています。
- ・職員意見や要望・満足度の掌握には設置法人が年度末に行う職員からのアンケート「キャリアプラン」提出により行っています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人株式会社ポピンズの運営哲学に「倫理」「コプライアンス」が明記されていて、職員は入社時に必ず研修を受けています。経営状況については設置法人のホームページに内容が詳しく掲載されています。 ・設置法人の全体会議や幹部職員候補生向けの「インテンシブセミナー」のテーマとして、他園の不正、不適切事例を取り上げ、ケーススタディしています。 ・横浜市ゴミ処理3Rシステムに従い、分別を行っています。 ・再利用できるものは手作りおもちゃや子どもの自由な発想での製作活動に使用しています。 ・電気スイッチのそばには環境を考慮した「節電シール」を貼るなどして、使用しない部屋の消灯を心掛け、省エネルギー行動を進めています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は原則的には毎朝「保育園理念・基本方針」を唱和して仕事に入ることにはしていますが、時間がない時は着替えの最中にでも心で唱えるよう指導しています。 ・会議の中で議論が錯綜した場合、施設長は「保育園理念・基本方針」に立ち戻って考えるように指導しています。 ・各職員は毎日行う「保育日誌」での「保育サービスチェックリスト」を通して、自らと理念との隔たりを反省しています。 ・園の重要な意思決定に関しては、設置法人の担当者が来園し、保護者懇談会などで保護者の意見を聞き、また丁寧に説明しています。 ・設置法人では、課題によっては認可保育園統括部、企画営業部など、総力をあげて取り組む仕組みがあります。 ・設置法人主催の「インテンシブセミナー」が年1回開催され、幹部スタッフを育成しています。 ・シフト表作成に必要な全職員の業務状況把握については、主任のほかに数人の職員がサポートしており、複数職員により運営されています。 ・主任は施設長と職員の間に入って、全職員間のスムーズなコミュニケーションがなされるように努めています。 ・施設長、主任、看護師は職員の問題を含め、精神的、身体的な状況には絶えず気を配っています。
VI-3 効率的な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育専門家からの多くの意見は、系列全体園長会議などで問題が提起され、議論しています。系列全体園長会議での議論内容を施設長は園に持帰り、全職員で共有しています。 ・経理業務のシステム化運用を軌道に乗せ、さらなる業務の効率化を目指しています。 ・「インテンシブセミナー」にて次期幹部職員の育成を行っています。 <p><提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人より長期計画として「将来の理想とする保育園像」があり、これに向かって「中期計画」があります。今後はさらに「中期計画」の各テーマを実行目標に結び付ける年度ごとの「事業計画」を作って行動する目標管理システムの確立が望まれます。

--	--

利用者家族アンケート

ポピンズナーサリースクール センター南保育園

・0歳児	7
・1歳児	7
・2歳児	7
・3歳児	6
・4歳児	5
・5歳児	1
合計	33
回収率	83%

調査期間 平成 28 年 9 月 5 日～ 9 月 13 日

調査機関 NPO法人 中小企業再生支援

■保育園の基本理念や基本方針についておたずねします。

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか(○は1つだけ)

1 よく知っている 6名 %	3 どちらともいえな 3名	4 あまり知らない 2名 %	
2 まあ知っている 20名 %		5 まったく知らない 名 %	
			合計 33

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方へ】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。(○は1つだけ)

1 賛同できる 19名 %	3 どちらともいえない 9	4 あまり賛同できない 0
2 まあ賛同できる 7名 %		5 賛同できない 0

■ここからは保育園のサービス内容について、満足度をおたずねします。

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

(上段の単位は人)	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他
見学の受け入れについては	25	5	0	0	3
	76%	15%	0%	0%	9%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	22	7	1	0	2
	67%	21%	3%	0%	6%
園の目標や方針についての説明には	18	13	0	0	1
	55%	39%	0%	0%	3%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	27	4	0	0	1
	82%	12%	0%	0%	3%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	25	7	0	0	1
	76%	21%	0%	0%	3%
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	25	7	0	0	1
	76%	21%	0%	0%	3%

問3 保育や行事の年間計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。
 (〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他
年間の保育や行事についての説明には	24	8	1	0	0
	73%	24%	3%	0%	0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	14	15	0	1	3
	42%	45%	0%	3%	9%

問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。
 なお、乳幼児期の保育は、教育的なねらいを持った遊びを通して行われています。

(〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

「遊び」について	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	22	10	0	0	0
	67%	30%	0%	0%	0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	16	13	3	1	0
	48%	39%	9%	3%	0%
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	22	10	1	0	0
	67%	30%	3%	0%	0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	22	6	4	0	1
	67%	18%	12%	0%	3%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	16	13	0	0	0
	48%	39%	0%	0%	0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	18	12	3	0	0
	55%	36%	9%	0%	0%

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他
給食の献立内容については	28	5	0	0	0
	85%	15%	0%	0%	0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	26	6	0	0	1
	79%	18%	0%	0%	3%
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	22	8	0	0	1
	67%	24%	0%	0%	3%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	25	7	0	0	1
	76%	21%	0%	0%	3%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	19	6	0	2	6
	58%	18%	0%	6%	18%
お子さんの体調への気配りについては	28	4	1	0	0
	85%	12%	3%	0%	0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	26	6	0	0	1
	79%	18%	0%	0%	3%

問5 保育園の快適さや安全対策などについていかがですか。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他
施設設備については	19	10	2	1	1
	58%	30%	6%	3%	3%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	24	8	1	0	0
	73%	24%	3%	0%	0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	27	5	1	0	0
	82%	15%	3%	0%	0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	22	9	1	1	0
	67%	27%	3%	3%	0%

問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。
 (○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	22	10	0	0	0
	67%	30%	0%	0%	0%
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	21	10	0	1	0
	64%	30%	0%	3%	0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	24	7	1	0	0
	73%	21%	3%	0%	0%
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	23	7	2	0	0
	70%	21%	6%	0%	0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	23	8	1	0	0
	70%	24%	3%	0%	0%
保護者からの相談事への対応には	24	6	2	0	0
	73%	18%	6%	0%	0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	18	12	2	0	0
	55%	36%	6%	0%	0%

問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。
 (○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他
あなたのお子さんが大切にされているかについては	26	6	0	0	
	79%	18%	0%	0%	0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	25	7	0	0	0
	76%	21%	0%	0%	0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	21	6	0	0	3
	64%	18%	0%	0%	9%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	27	4	1	0	0
	82%	12%	3%	0%	0%
意見や要望への対応については	24	6	2	0	0
	73%	18%	6%	0%	0%

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

総合満足度は	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他
	26	6	0	0	0
	79%	18%	0%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 28 年 10 月 4 日、21 日

事業所名：ポピンズナーサリースクールセンター南

【0 歳児】(11 か月～1 歳 5 か月)

<散歩>

4 人乗りのバギーに 3 人、2 人乗りのバギーに 1 人、あとの 1 人（1 歳 4 か月）は保育士と手をつないで歩きます。駅前まで来るとバスがいっぱい止まっていました。そこに大きなバスが入ってきました。空港に行くバスです。バスが次々来るたびに歓声を挙げています。指をさしている子、手を叩いている子もいます。「今日はバス、いっぱい見たね。」保育士がみんなに話しかけながら、「電車も見て帰ろうね」と、言ったとき、空港行きの大きなバスが発車するところでした。乗客の大きな荷物の積込みをじっと見ていた子ども達はバスが動き出すと手を挙げてバイバイしていました。それから地下鉄のブルーラインとグリーンラインを見ましたが、ここでも子ども達は歓声を挙げていました。

<自由遊び>

子ども達がカラーチェーンを持って遊んでいます。チェーンを手いっぱい持っている子、紙コップのなかに、入れたり出したりしている子、保育士の膝に乗っている子、つかまり立ちをしている子、保育士は子ども達の様子を見ながら、つかまり立ちをしている子を目で追っています。

手作りおもちゃの中に、マラカスがあります。子どもの手のひらサイズのボトルにビーズ、鈴を入れ、音が出るように保育士が作りました。子ども達はしっかり手に持ってボトルを振って音を楽しんでいます。

<食事>

保育士が一人ひとりにスタイをつけています。食事は皆「後期食」になっており、トレーに名前が書いてあります。離乳食では未摂取のものを記載するようになっています。その日は 1 人のトレーにイチゴ、オレンジの記載がありました。「いただきます」のあと、すぐに手づかみで食べ始める子、保育士に口に入れてもらってる子、自分でスプーン、フォークを使い口に入れてる子、保育士は子どもに食べさせながらみんなの食べる様子を見回しています。

【1 歳児】

<散歩> (駅前広場)

園から持参した「おままごと」を砂場いっぱい広げて子ども達が夢中になって何か

作っています。フライパンにシャベルで砂を入れ、すりこぎで混ぜている子、カニ型の器に砂を入れてる子、鍋の蓋を2つ合わせてパンパン音を楽しんでいる子、保育士が砂に指で円を描くと、すぐに真似をする子、みんな楽しく遊んでいます。「ご飯できたよ！熱いよ！」ご飯のできたことを皆に伝えていきます。お皿に入れて渡すとき、「熱いよ！」と、注意も伝えていました。

保育士が「暑いからお茶飲もうね」子ども達に声かけし、一人ひとりに紙コップを配り、「両方のお手で持っててね」お茶を順番に入れていきます。「はい、どうぞ」、この日は暑かったので子ども達はすぐに飲み干し、お代わりする子もいました。

<食事> (魚、野菜の煮物、スープ、ごはん)

今日のメインはお魚です。トレイにお手拭き(各自、持参のもの)、が配られています。アレルギー食(除去食)は黄色のトレイで分け、他の食事と混ざらないように黄色のエプロンをつけて配膳しています。食事の前にみんなで歌を歌って「いただきます」をします。保育士の「どうぞ召し上がれ」の声で一斉に食べ始めました。途中でお鼻がでていた子どもに気づき、ティッシュでそっと拭いてあげていました。手づかみの子も若干いましたが、スプーンで上手く口に運んでいました。

<午睡の風景>

半分くらいの子どもは寝ていますが、眠りにつけない子どもは、バスタオルをいじったり、足を上げたり指しゃぶりする子もいます。保育士が子どもの中に入って背中を「とんとん」しています。すると一人起き上がりトイレに直行しました。すると、また1人がトイレに。次々トイレ行きが伝線しているうちに他の子どもは眠りにつきました。

【2歳児】

<散歩の準備>

散歩前の準備です。順番にトイレに行き、ホワイトボードの前に皆で座り、先生から今日の予定を聞きます。保育室の子どもたちの着替えや持ち物を収納する棚はパーテーションとなり、裏面は磁石が貼りつく白版となっています。これは磁石つき文字ブロックを貼り付けながら字の勉強にも使います。出掛ける前のひとときには先生の読み聞かせが始まりました。皆静かに先生の言葉に聞き入っていました。先生から一人一人帽子をかぶらせてもらいます。今日は2歳児は中央公園をぐるっと一回りするコースです。ゆっくりと玄関で靴を履き、玄関前フロアで待機します。ビルの1階より外に出て、大きな横断歩道橋を手をつないで渡り、中央公園の池の周辺を先生、友達と手をつなぎ、ゆっくりと歩きました。

<食事>

除去食が1名います。トレイは黄色、名前が書いてあります。子ども達は自分の食べやすいスプーン、フォークで食べています。味噌汁のスープだけ飲んでしまい、残った具をスプーンで食べている子、おかずだけ食べてしまった子、保育士が「おかず、みん

な食べちゃったんだ？」その子どもに話かけながら、他の子どもにも目を向けていました。

<午睡の準備>

保育士が部屋のロールカーテンを下ろしています。トイレを済ませた子ども達が、ロッカーからパジャマの入った袋を取り出しています。ゆっくり着替えている子、脱いだ服がそのままになってる子、さまざまです。「脱いだものをたたんでね」「ちゃんと袋にしまってね」「〇〇ちゃん、早いね。もう、終わったの？座って待っててね」保育士が声かけしながら子ども達の様子を見ています。「〇〇ちゃん、お鼻が凄いね」鼻水が出ているのに気付き、そっと拭いてやっていました。女の子が保育士の側にきました。「〇〇ちゃん、新しいパジャマだね」保育士が言うと、女の子は嬉しそうに着ているパジャマを皆に見えるようにぐるっと回って見せていました。

<自由遊び>

部屋の中を牛乳パックから作った蛇腹で囲ってあります。この蛇腹は保育士が考案したもので色を塗り、長くつなげてあります。コーナーや基地、島になったり、その時の子どもの発想、気分で遊んでいます。今日は蛇腹で囲った中をさらに色テープで囲い、ソフトブロックを使ってみんなで一緒に遊んでいましたが、一人、マイペースで黙々とブロックで何かを作っていました。その姿を保育士は様子を見ながら温かく見守っていました。パーテーションの中で、字ブロックを使いひらがなあそびの子どももいます。字が分からなくても時に親しむことで効果があるようです。

【3歳児】

<散歩>

3歳児は今日の散歩は歩いて15分以上かかる「なのはな公園」に行きます。歩道橋の下をくぐったり、大きな歩道橋を渡ったりしながら、友達同士で手をつなぎ、先生のリードで危なくないように歩きます。3歳児5名、先生2名で公園に入り、先生が危険がないことを確認した後、一斉に砂場に入りました。先生が持参したスコップやバケツで砂遊びです。一人の子が砂の中から何やら出てきたものを拾い、先生になんだろうを聞くと、先生もわからなかったようでした。でも危険なものではないようで安心です。

<散歩の後>

3歳児は散歩の後先生が何をして遊びたいかを聞いたところ、“粘土遊びがしたい”という返事がありました。皆、一斉にテーブルの上に粘土を持ちだし、粘土板を使い、形を打ち出しています。出来上がった形の粘土は、自分の名前をついた粘土ケースの中にしまえます。使用した各種の型板はかごの中に各自がしまえます。テーブルのまわりや床に落ちた粘土片も皆できれいに拾ってきれいにしました。その後順番に手洗いをし、プログラムは終了です。

<食事>

3歳児はテーブルを拭きます。行事などが無いときは、通常11時45分から30分位で終わるようにしています。「熱いから(味噌汁)気をつけて!」「ぼっかり食べ、しないで!」3歳位になるとみんなで注意し合っています。きれいに食べて食器がピカピカになったらお代わりができます。「お代わりください」「何にしますか?」「お魚とこれ!(野菜の煮物)」きれいに食べた子どもがお代わりをしています。一人の子どもが口の中から何かだしました。「骨があった!」保育士は、「よく見つけられたね」その子に「いい子、いい子をしていました。」

【4、5歳児】

<散歩>

今日は園の大通りをはさんだ向こう側にある広大な都筑区中央公園です。園からはかなり背の高い歩道橋を歩いて公園に行きます。広い煉瓦を敷詰めた広場に出ました。大縄跳びをこれから覚えようとしています。初めは先生二人の持つ大縄は左右に少しだけゆっくりと振ります。跳ぶことのできる子とできない子がいますが、先生は辛抱強く順番に教えて行きます。その内にできる子が数人でできました。すかさず先生は左右に振るだけでなく大きく回してみました。最初はやはり足を引っ掛けてしまいましたが、その内、跳べるようになりました。子どもは進歩が速いです。

<食事前、午睡前の準備>

5歳児は、3、4、5歳児のフトン敷きのお手伝いをします。その間、4歳児は食事前のテーブルにつき、絵本を静かに読み始めました。散歩途上の歩道橋の階段から見えた森の中の赤いキノコを図鑑で調べる子もいました。図鑑によると食べられるキノコだったと読取りましたが、先生は「だけど安心はできないよ」と注釈をいれていました。

<食事>

4、5歳児の食事はバイキング方式です。テーブルに並べられた見本の盛付けを見ながら、子どもたちは自分の食べられる量に見合った盛付けを順番に自分でやり、席に持って行きます。自分の盛り付けた器が空になるといよいよお代わりタイムです。お代わりがなくならないうちにと、結構競争もあるようです。箸で人を指さすような仕草があると、先生はやんわりと注意していました。子どもも素直に言うことを聞いていました。

<午後の自由遊び>

広い保育室のテーブルの上に、塗り絵コーナーなど数々のコーナーが出現、アトリエ室では一面、ブロックコーナーになっており、小型ブロックでお城を作るグループなどブロックの大きさ、形状、さらに造ろうとする作品別に子どもたちは分かれて、楽しそうに遊んでいました。

【全園児】

<お帰りのご挨拶>

みんなでお帰りのお歌を歌ったあと、「お当番さん、今日一日ありがとうございました！」みんなでお当番さんにお礼を言います。保育士が「静かに聞いて下さい。今日はちょっと残念なお知らせがあります」「〇〇先生が明日から長いお休みに入ってしまうです」。子ども達にお休みのことを伝え、「何でお休みするかわかる人？」、子どもの手が上がり、「赤ちゃんが生まれるから」、みんなよく知っていました。長いお休みに入る先生にマーガレット（4～5歳）さんが、みんなの気持ちを聞いてプレゼントを作りました。それをみんなで先生にプレゼントしました。